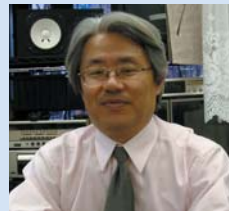


# HDMA-2000を使った新提案

## 「HDVでちゃんと動くシステムというのは、カーノプスのもの以外には見あたらないのです」

### 有限会社フオーツーツー 取締役 尾上泰夫氏インタビュー

東京・六本木において、独自の空間演出が注目されていたWAVEの技術顧問を務めたり、NHKでハイビジョンコンテンツの仕事に携わっていたりと、常に映像の最前線で活躍されてきたフオーツーツーの取締役である尾上泰夫氏。尾上氏は映像による新たな空間を作り出すというチャレンジをスタートした。そのひとつの形が「窓」HDViewというシステムで、アートワークセラピーという観点からコンテンツの制作を手がける関連会社のDreamCraftとともに、そのシステムインテグレーションの提案を行っている。そして、尾上氏は、「窓」HDViewというシステムを成立させるためには、カーノプスのHDMA-2000が欠かせないという。そのあたりについて、詳しく伺っていきましょう。



#### 【新しい空間の創造にチャレンジ:「窓」HDViewシステム】

尾上氏が提案する新たなシステムは、モニターをモニターとして見せず、空間の一部である窓としてみせようというもの。それは、「見る者を飽きさせない」ことへ向けての新たなチャレンジである。

「窓」HDViewというシステムをご提案されていますが、具体的に教えてくださいませんか？

尾上氏：「窓」HDViewとは、完全に、店舗・業務のシステムで、店内にモニターを設置し、そこに映像を映し出すものです。ただし、従来のように、モニターが主役でその中に映像が映し出されているというのではなく、周辺の造作などにも設計段階から配慮して、モニターが窓のように、その空間の中の一部として存在するものと考えています。要するに、窓から見える景色を現実化し作り出す、という感覚ですね。

80年代に流行した「環境映像」と似たものですか？

尾上氏：考え方としては近いのですが、コンテンツを見せる目的ではない、というのが最大の違いです。空間にどういったものを埋め込んでいくかということが主眼なのです。

具体的には、どのような見せ方になるのでしょうか？

尾上氏：尾上氏:大型のプラズマモニターなどを設置して、そこにハイビジョン映像を映し出す形になります。例えばレストランやカフェでの空間演出において、「森を見たい」「湖を見たい」などと考えても、実際には実現できないですよね。そこで、モニターとハイビジョン映像を利用し、目的の空間を実現するわけです。

となると、窓から見える景色には、十分なリアリティが必要となるわけですね。

尾上氏：そうです。ハイビジョン映像無くして「窓」HDViewはあり得ません。そこで必要となったのが、ハイビジョン映像を簡単に再生できて、かつ、安価な機器の存在だったわけです。いろいろと探してみた結果、カーノプスのHDMA-2000がワン&オンリーで、ベストでした。ハイビジョン映像の制作や利用にはコストがかかるので、なかなか元が取れないといわれていますが、それが、カーノプスのHDMA-2000を使うことで可能になったと思います。

従来のSD映像では、力不足ですか？

尾上氏：SD映像ではやはり、クオリティが足りませんね。プラズマにせよ、液晶にせよ、大型のものがずいぶん安くなり、そのおかげで、店舗に映像を持ち込みたいと考えるオーナーさんは増えています。たとえば、カフェなどでは、そのトータルな雰囲気というのが非常に大切にされますから。そのためには、ハイクオリティな映像は、欠かせない要件なのです。

#### 【HDVの編集から投影までを一貫して行えるのはカーノプスだけ】

カーノプスも賛同するHDVという新しい規格が大きな注目を集めつつある現在、「窓」HDViewシステムは、カーノプス製品の可能性を上手に引き出したものとなっている。「窓」HDViewは、デジタル時代の新しい空間創造の提案だ。

そもそも、カーノプス製品と出逢われたきっかけは、どういったことだったのですか？



実際に「窓」HDViewシステムを操作する尾上氏。



尾上氏とともに「窓」HDViewのコンテンツ制作を手がけるDream Craftの平田晋吾さん(左)と水野眞砂美さんは、マネージャーでもあり、また、アートワークセラピストでもある

尾上氏：もともとインテグレーションをやっていたので、カーノプスを映像関連メーカーとして認知し、また、お付き合いもありました。

SD時代からのお付き合い、というわけですね。

尾上氏：ええ。それが、HDになってから、特に、HDVでちゃんと動くシステムというのは、カーノプス以外には見あたらないのです。

具体的には、カーノプス製品のどのあたりがよいですか？

尾上氏：特に、コーデックが秀逸ですね。所詮、HDの非圧縮ではなく、必ず圧縮してから何かを行うということになるわけですから、圧縮のさせ方というのはまさに、その映像の“命”になってくると思うのです。圧縮というのは、いうならば間引きなわけで、そこには、画質を落とさないぎりぎりのところの攻防戦があるわけです。そうした点で、カーノプスの圧縮技術の高さには、とても期待をしているのです。

カーノプスのコーデックは確かに、いろいろな面で高い評価を得ています。

尾上氏：コーデックをはじめ、HDVに関して、編集から再生までを一貫して行いたいといった状況考えた時には、今日現在のところ、カーノプスのものが一番です。弊社では、他社製品もいろいろとシステムとして用意はしているのですが、まずは、カーノプスですね。HDMA-2000は、その一つの好例だと思います。コスト面からしても、とても使いやすいですね。

貴社はまだ、立ち上がってから間もないとのことですが、「窓」HDViewシステムは、すでにどこかに導入されましたか？

尾上氏：現在はデモを作っている最中なのですが、テスト的に入れさせていただきになっている場所としては、東京ドームの「ラクア」というスパがあります。そこは、わりとアジアチックな感じを目指しているところとして、南国のイメージを演出するというプランになっています。そのほか青山のカフェにもシステムを入れるプランが進行中です。

「窓」HDViewのコンセプトを理解してもらおうのは、大変ではありませんか？

尾上氏：多少、時間はかかりますね。でも、窓のコンセプトを理解されていないオーナーさんなりデザイナーさんなりであったとしても、いったんコンセプトを理解されると、新たなデザイン意欲がわいてくるというケースも、わりとよくありますね。雰囲気を作るために、そこで流すコンテンツにまで考えが行くと、他に選択肢がなくなりますので、話が進みます。

「窓」HDViewは、デジタル時代の新しい空間創造の提案ですね。

尾上氏：その通りです。デジタルはここ10年で進化してきました、いまや業務形態も変えていかなければならない時代だと思います。いままでとは全然違ったビジネスモデルが考えられるようになってきていると思いますね。ここ10年で一番の変化は、出力系の違いですね。映像を運ぶための手段に通信が使えるようになったことなど、メディア自体も変化してきています。そうした将来性なども含め、カーノプスのシステムであれば、いままでには考えられなかったようなハイビジョンのシステムが、低予算でも実現できるのです。

「やはり、癒しは必要ですね」と笑顔でおっしゃる尾上氏。新しい空間創造へのチャレンジは、まだ始まったばかり。これからのアクションが楽しみである。

インタビュー・記事作成：PCライター 村野 公一

(有)フオーツーツー：http://www.ftt.co.jp/

DreamCraft：http://dreamcraft.jp

なお、詳しいインタビューはhttp://www.canopus~をご覧ください。

癒しの「窓」HDViewは、財団法人店舗システム協会が主催する“Japan Shop System Awards 2005”においてビジネスデザイン奨励賞を受賞しました。